

2020年度
金沢学院大学
学生の学修状況・学修成果等の検証
報告書

2021年3月30日
金沢学院大学

アドミッションポリシーの評価資料

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

入学直後に実施した学内共通の基礎学力確認テスト（英語・数学）の総合成績の平均を、大学全体・短期大学全体・学科別に算出し、さらに学科内で入試区分別に分類して平均を算出した。これらの平均を、大学・短大全体の平均と比較して+5点以上のものを「学内平均を上回った」、±5点の範囲のものを「学内平均と同程度」、-5点以下のものを「学内平均を下回った」と表記した。

大学全体の基礎学力確認テストの受験者は792名（昨年度比-9名）であった。平均点は、英語（35点満点）が19.6点（ $SD=6.79$ ）で昨年度比+0.2点、数学（30点満点）が22.7点（ $SD=4.32$ ）で昨年度比±0.0点、2科目の総合成績（65点満点）が42.4点（ $SD=9.85$ ）で昨年度比+0.2点であった。ただし、2020年度の基礎学力確認テストは、新型コロナウイルス感染症への対策としてガイダンスの短縮等を図ったため、入学直後にすべてのテストを実施した学科と、入学直後には英語のみを実施して、前期末に数学を追加実施した学科がある。そのため、2019年度との比較には注意が必要である。また、このように実施時期にずれがあるため、いずれか1科目しか受験していない新入生もいるが、今回の分析からは1科目のみの受験者は除外した。受験者が昨年度比で減少しているのは、主にこの理由によるものである。

なお、2019年度の評価に用いた「学ぶ意欲のある学生が入学してきたか」および「これからもこの大学／短大で学び続ける意思がありそうか」の2項目については、これらの項目の基となる入学直後の新入生向けのアンケートが、新型コロナウイルス感染症への対策として新入生の登校を制限したことから実施困難であったため、2020年度は分析が未実施である。

○文学部

【文学科】

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：22.3 ($SD = 6.60$)，数学：23.4 ($SD = 3.99$)，総合 45.7 ($SD = 9.02$)

文学科の基礎学力確認テストの受験者数は 177 名であった。英語，数学，総合成績のいずれも大学の平均を上回った。総合成績の平均は 45.7 点 ($SD = 9.02$) で，大学平均 (42.4 点) よりも 3.3 点高いが，2019 年度比では -0.2 点であった。2019 年度と比較して，ほぼ同等の学力を備えていると言える。

入試区分別では，センター利用入試，一般入試，一般推薦（併願制）の入学者の成績が高く，いずれの区分においても偏差値が 57 以上となった。これらの区分の入学者の比率は 63.8% である。大学平均以上または大学平均並みの学生は入学者の 79.7% を占めるが，2019 年度比では 6.0 ポイント下がった。大学平均 - 1SD 以下（入学者全体の下位 15.93%）に相当する学生の比率は 6.8% で，2019 年度よりも 0.5 ポイント上がった。

評価

基本的な学力にややばらつきはあるものの，大学での学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって，基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

【教育学科】

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：23.3 ($SD = 6.28$)，数学：24.5 ($SD = 3.76$)，総合 47.7 ($SD = 9.06$)

教育学科の基礎学力確認テストの受験者数は 84 名であった。英語，数学，総合成績のいずれも大学の平均を上回り，すべて全学科の中で最も高い成績である。総合成績の平均は 47.7 点 ($SD = 9.06$) で，大学平均 (42.4 点) よりも 5.3 点高く，2019 年度比で +0.5 点であった。2019 年度と比較して，ほぼ同等の学力を備えていると言える。

入試区分別では，センター利用入試，一般入試の入学者の成績が特に高く，大学内での偏差値はいずれも 59 を超えている。一方，2019 年度には見られなかった偏差値が 50 に満たない入試区分もあり，これらの入学者は 11.9% であった。大学平均以上または大学平均並みの学生は入学者の 84.5% を占め，2019 年度比で 0.3 ポイント上がった。大学平均 - 1SD 以下（入学者全体の下位 15.93%）に相当する学生の比率は，8.3% であった。

評価

基本的な学力は学内でも比較的高く，大学での学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって，基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

○経済学部

経済学部は、経営情報学部を改組して2020年度に設置された学部で、経済学科と経営学科の2学科で構成される。この報告書においては、2019年度の比較対象を改組前の経営情報学部とする。

【経済学科】

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：19.5 ($SD = 5.97$)，数学：22.9 ($SD = 4.78$)，総合42.4 ($SD = 9.85$)

経済学科の基礎学力確認テストの受験者数は75名であった。数学，総合成績は大学平均を上回ったが，英語は学内大学平均よりもわずかに低くなった。総合成績の平均は42.4点 ($SD = 9.85$) で，大学平均(42.4点)とほぼ同じである。2019年度(経営情報学部)比では+2.0点であった。2019年度と比較して，ほぼ同等の学力を備えていると言える。

入試区分別では，センター利用入試，一般入試，一般推薦(併願制)の入学者の成績が高く，いずれの区分においても偏差値が57以上となった。これらの区分の入学者の比率は40.0%である。大学平均以上または大学平均並みの学生は入学者の69.3%を占め，2019年度比では11.4ポイント上がった。大学平均-1SD以下(入学者全体の下位15.93%)に相当する学生の比率は14.7%で，2019年度よりも3.5ポイント下がった。一方，入学者の20.0%を占めるエントリー入試の入学者(15名)の成績は，大学平均を10点以上下回る32.0点(大学内の偏差値換算で39.5)であり，この区分の入学者の学力には懸念がある。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては，新入生の約20%に学力的な問題が示唆されるが，大半の学生は十分な基礎学力を備えていると言える。したがって，基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

【経営学科】

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：16.7 ($SD = 6.54$)，数学：22.2 ($SD = 4.09$)，総合38.8 ($SD = 9.52$)

経済学科の基礎学力確認テストの受験者数は72名であった。英語，数学，総合成績のいずれも大学平均よりも低くなった。

総合成績の平均は38.8点 ($SD = 9.52$) で，大学平均(42.4点)を3.6点下回った。2019年度(経営情報学部)比でも-1.5点であった。2019年度と比較してほぼ同等の学力を備えているが，2020年度の大学全体の中ではやや低いと言える。

入試区分別では，センター利用入試，一般入試の入学者の成績が高く，いずれの区分においても偏差値が56以上となった。これらの区分の入学者の比率は34.7%である。大学平均以上または大学平均並みの学生は入学者の52.8%を占め，2019年度比では5.1ポイント下がった。大学平均-1SD以下(入

学者全体の下位 15.93%) に相当する学生の比率は 20.1% で、2019 年度よりも 1.9 ポイント上がった。

センター利用入試、一般入試以外の入試区分の入学者の平均点はいずれも学内の平均に届かず、特に入学者の 45.3% を占めるエントリー入試、指定校推薦、一般推薦（専願制・併願制）、附属高校選抜（計 30 名）の平均点は大学内の偏差値換算ですべて 45 未満となっており、基礎学力に懸念がある。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、学科の約半数は十分な基礎学力を備えていると言えるが、一部に学力的な問題が示唆される。基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断するが、一部の学生については入学後の学修状況についての注視が必要であるかもしれない。

○経済情報学部

経済情報学部は、経営情報学部を改組して 2020 年度に設置された学部で、経済情報学科 1 学科のみである。この報告書においては、2019 年度の比較対象を改組前の経営情報学部とする。

【経済情報学科】

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：16.9 ($SD = 6.00$)、数学：22.4 ($SD = 4.36$)、総合 39.2 ($SD = 9.32$)

経済情報学科の基礎学力確認テストの受験者数は 76 名であった。数学は、大学の平均とほぼ同等であったが、英語と総合成績は大学平均よりも低くなった。

総合成績の平均は 39.2 点 ($SD = 9.85$) で、大学平均 (42.4 点) を 3.2 点下回った。2019 年度と比較してほぼ同等の学力を備えているが、2020 年度の大学全体の中ではやや低いと言える。

入試区別では、センター利用入試、一般入試の入学者の成績が高く、いずれの区分においても偏差値が 55 以上となった。これらの区分の入学者の比率は 30.3% である。大学平均以上または大学平均並みの学生は入学者の 55.3% を占め、2019 年度比では 2.6 ポイント下がった。大学平均 - 1SD 以下（入学者全体の下位 15.93%）に相当する学生の比率は 21.1% で、2019 年度よりも 2.9 ポイント上がった。

一方、入学者の 65.3% を占めるエントリー入試、スポーツエントリー入試、一般推薦（専願制）の入学者（47 名）の成績は、いずれも大学平均を約 9 点下回って大学内の偏差値換算で 40 台となっており、この区分の入学者の学力には懸念がある。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、学科の約半数は十分な基礎学力を備えていると言えるが、一部に学力的な問題が示唆される。基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断するが、一部の学生については入学後の学修状況についての注視が必要であるかもしれない。

○芸術学部

【芸術学科】

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：20.7 ($SD=5.66$)，数学：22.3 ($SD=4.38$)，総合 42.9 ($SD=8.32$)

芸術学科の基礎学力確認テストの受験者数は 76 名であった。英語と総合成績は大学の平均を上待ったが、数学は大学平均よりも低くなった。

総合成績の平均は 42.9 点 ($SD=8.31$) で、大学平均 (42.4 点) とほぼ同じである。2019 年度比では +2.3 点であった。2019 年度と比較して、ほぼ同等の学力を備えていると言える。

入試区分別では、センター利用入試の入学者の成績が高く、大学内の偏差値が 55.0 となった。センター利用入試の入学者の比率は 21.1% である。専門・総合学科推薦の区分の偏差値も高いが、この区分の入学者は 1 名のみである。大学平均以上または大学平均並みの学生は入学者の 73.7% を占め、2019 年度比では 6.6 ポイント上がった。大学平均 -1SD 以下 (入学者全体の 15.93%) に相当する学生の比率は 10.0% で、2019 年度よりも 11.5 ポイント下がった。

評価

大学での学修に必要な基礎学力に関しては、大半の学生は十分な基礎学力を備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。また、昨年度と比較して、平均点ではあまり差がないが、得点区分の比率は上方に推移しており、入学者の学力水準がやや向上したと言える。

○人間健康学部

【スポーツ健康学科】

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：15.5 ($SD=5.60$)，数学：21.2 ($SD=4.38$)，総合 36.7 ($SD=8.87$)

スポーツ健康学科の基礎学力確認テストの受験者数は 158 名であった。英語、数学、総合成績のいずれも大学平均よりも低くなった。

総合成績の平均は 36.7 点 ($SD=8.87$) で、大学平均 (42.4 点) を 5.7 点下回った。2019 年度比では +1.0 点であった。2019 年度と比較してほぼ同等の学力を備えているが、2020 年度の大学全体の中では低い方に位置していると言える。

入試区分別では、センター利用入試の入学者の成績が高く、偏差値が 61.8 となったが、この区分の入学者は 2 名 (1.3%) である。スポーツ健康学科は、学科の特性上スポーツエントリー入試に入学者が集中しており、この区分の入学者は学科の 61.4% を占めるが、平均点は 35.7 点で学科の平均よりも低い。大学平均以上または大学平均並みの学生は入学者の 48.1% を占め、2019 年度比では 25.9 ポイン

ト上がった。大学平均-1SD以下(入学者全体の下位 15.93%)に相当する学生の比率は 31.6%で、2019年度よりも 0.2 ポイント上がった。

評価

スポーツ健康学科は、アドミッションポリシーの適用において、学科特性として入学後の活動意欲に重きを置く学科である。今年度は新入生アンケートで入学後の学びや課外活動の意欲を検証できていない。したがって、総合的にみてアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断するには、材料が乏しい。大学での学修に必要な基礎学力に関しては、アドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると考えられるが、学科の約 30%に学力的な問題が示唆され、特に成績の低い一部の学生については入学後の学修状況についての注視が必要であるかもしれない。

【健康栄養学科】

一定の基礎学力を備えた学生が入学してきたか

【基礎学力確認テスト】英語：22.7 ($SD = 5.83$)、数学：23.6 ($SD = 3.82$)、総合 46.3 ($SD = 8.42$)

健康栄養学科の基礎学力確認テストの受験者数は 74 名であった。英語、数学、総合成績のいずれも大学平均よりも高くなった。

総合成績の平均は 46.3 点 ($SD = 8.42$) で、大学平均 (42.4 点) を 3.9 点上回り、全学科中で 2 番目の成績であった。2019 年度比では +0.1 点であった。2019 年度と比較して、ほぼ同等の学力を備えていると言える。

入試区分別では、一般入試、センター利用入試の入学者の成績が高く、偏差値が 58 を超えている。これらの区分の入学者の比率は 40.5%である。専門・総合学科推薦の区分の偏差値も高いが、この区分の入学者は 1 名のみである。大学平均以上または大学平均並みの学生は入学者の 83.8%を占め、2019 年度比では 5.3 ポイント下がった。大学平均-1SD以下(入学者全体の下位 15.93%)に相当する学生の比率は 8.1%で、2019 年度よりも 11.5 ポイント下がった。大学平均-1SD以下(入学者全体の下位 15.93%に入る)に相当する学生の比率は 8.1%で、2019 年度よりも 2.2 ポイント下がった。

評価

基本的な学力は学内でも比較的高く、大学での学修に必要な基礎学力は備えていると言える。したがって、基礎学力についてはアドミッションポリシーにかなう学生が集まっていると判断する。

健康栄養学科は、卒業時に国家試験の受験を目標としており、スポーツ健康学科同様に入学後の学修意欲がどれくらい高いかが重要であるが、今年度は新入生アンケートで入学後の学びへの意欲を検証できていない。

アドミッションポリシーに関する総合評価

判断材料に限られる中ではあるが、以上の評価により、大学においては、アドミッションポリシーにかなわない学生が入学しているとは言えず、現在のアドミッションポリシーには大学の実情に合わない不適切な点はないと判断される。

ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生募集はおこなっていない。ただし、一部の学科における基礎学力の担保について、課題が残る。

カリキュラムポリシーの評価資料

○各学科における教養・専門・卒業研究／卒業論文等の合格率と履修放棄率

2019年度に開講されたすべての科目について、成績評価の内訳を整理し、成績評価の内訳の比率(秀・優・良・可)とこれらを合わせた合格率(単位修得率)を算出した。さらにこれらの科目の「放棄」の数に基づいて、履修取消者を除き、最終的な評価まで受講した履修登録者に占める履修放棄率を算出した。2019年度は履修放棄率の計算について「取消」も含めて計算し、分母も学期当初の履修登録者としたが、「取消」はGPAの算出に影響しないことを踏まえ、今年度の分析においては「放棄」のみを対象とした。

各学科の分析において用いている科目のカテゴリー名は、すべて2019年度の教育課程表に準じて記載した。

○文学部

【文学科】

①評価の対象とする科目

評価の対象とする科目は、2019年度の学生便覧に記載された教育課程表に基づいて選択した。教養科目からは、初年次教育4科目、キャリア教育8科目、第一外国語6科目の計18科目を対象とした。これらの区分は教育課程表に示された区分である。専門科目からは、学科共通専門科目のプレ卒業研究演習、卒業研究の2科目、専門科目146科目（4専攻分）を対象とした。専門科目を、さらに各専攻の1、2年次の必修または選択必修25科目と選択121科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。各専攻の1、2年次必修・選択必修科目には、2年次以降に他専攻の学生が履修している科目が含まれており、いずれか1専攻の合格率だけを示した数値ではないことに注意されたい。現在の文学科1学科への改組（2015年度）以前の旧3学科のカリキュラムの科目は、対象からは除外した。

②合格率と履修放棄率

教養科目については、初年次教育、キャリア教育、第一外国語の20科目の合格率の平均は、いずれも90%を超えた。専門科目については、学科共通専門科目のプレ卒業研究演習、卒業研究の合格率は、それぞれ97.5%と96.2%であった。各専攻の必修・選択必修科目については、合格率の平均は96.5%で、25科目中6科目（24.0%）が合格率100%であった。その他の選択科目では、合格率の平均は93.6%であった。121科目中42科目（34.7%）が合格率100%であった。

履修放棄率は、初年次教育のカテゴリーの1科目に高い数値（18.8%）が見られたが、この科目は選択科目である。専門科目のうち、各専攻の必修・選択必修科目のカテゴリーに、10%を超える履修放棄率の科目が1科目あった。選択科目については、一部に15%以上の高い履修放棄率を示した科目があるが、これらの科目には履修登録が20名未満のものが多い。20名を超える履修者がいる科目で履修放棄率が15%を超えた科目は1科目であった。

評価内訳については、いずれのカテゴリーにおいても受講生の過半数が「可」であったり、逆に高い評価ばかりであったりなどの成績評価の偏りは見られなかった。初年次教育科目では、「秀」と「優」の合計が71.5%に達しているが、学修の動機づけの観点からやむを得ない面もある。対象としたすべての科目では、「秀」と「優」の合計が48.8%であった。

2019年度とは対象科目の選択方法が異なっているが、同じカテゴリーの合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

本学科では、対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

【教育学科】**①評価の対象とする科目**

評価の対象とする科目は、2019年度の学生便覧に記載された教育課程表に基づいて選択した。教養科目のうち必修6科目、専門科目のうち教育課程表で教職基幹科目に分類される7科目、その他の専門54科目、合計67科目を対象とした。なお、本学科は2018年度開設であるため、2019年度は1、2年生のみ在籍している。したがって、対象となる科目もカリキュラムのうち2年次開講の科目までである。

②合格率と履修放棄率

合格率については、教養科目における対象科目の平均が97.9%、教職基幹科目の平均が98.1%、その他の専門科目の平均が95.4%であった。教職基幹科目では、7科目中4科目(57.1%)が合格率100%に達した。その他の専門科目では、54科目中42科目(77.8%)が合格率100%であった。他学科に比べ、合格率が100%に達する科目が多いのが特徴である。

履修放棄率については、いずれも平均が2%未満であった。その他の専門科目のカテゴリーに、33.3%という数値を示した科目があったが、この科目は履修登録者が3名しかおらず、そのうちの1名が放棄となったためである。

評価については、どのカテゴリーにも大きな偏りはなく、科目の特性を反映した評価になっており、また、学生の学びを適切に評価していると考ええる。対象としたすべての科目での「秀」と「優」の合計は、64.2%であった。

2019年度よりも対象科目が増え、さらに対象科目の選択方法も異なっているが、同じカテゴリーの合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

本学科では、対象とした主要科目の履修につまづきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。まだ完成年度を迎える前であり、学科全体の学修が進んでいる途上であるが、現状の評価からはカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

○経営情報学部**【経営情報学科】****①評価の対象とする科目**

評価の対象とする科目は、2019年度の学生便覧に記載された教育課程表に基づいて選択した。教養科目から修学基礎5科目、キャリア教育2科目の計7科目、外国語科目から英語2科目、専門科目から90科目を対象とした。専門科目を、さらに必修科目9科目と選択科目81科目に分け、合格率と履修放棄率を算出した。

現在の経営情報学科 1 学科への改組（2016 年度）以前の旧 2 学科のカリキュラムは、対象から除外した。

②合格率と履修放棄率

教養科目については、修学基礎、キャリア教育、英語の 9 科目の合格率の平均は、いずれも 90%を超えた。専門科目については、必修科目の合格率の平均は 98.1%、選択科目の合格率の平均は 90.8%であった。必修科目 9 科目中 2 科目（22.2%）が、合格率 100%であった。選択科目では、81 科目中 13 科目（16.2%）が合格率 100%であった。他学科よりも、合格率 100%に達する科目が少ない。

履修放棄率は、すべてのカテゴリーで、平均が 10%未満（初年次教育 1.3%、キャリア教育 0.0%、英語 3.1%、専門必修 1.7%、専門選択 9.1%）であった。専門選択科目の中に、履修放棄率が 15%を超える科目が 13 科目あり、そのうち 2 科目が 50%を超えた。これらの科目はいずれも教育課程表上では 3 年次の開講科目であった。集中講義で実施され、履修登録者がそれぞれ 22 名と 18 名、履修放棄がいずれも 11 名という結果であった。

評価内訳については、いずれのカテゴリーにおいても受講生の過半数が「可」であったり、逆に高い評価ばかりであったりなどの成績評価の偏りは見られなかった。キャリア教育科目では、「秀」と「優」の合計が 71.5%に達している。対象としたすべての科目では、「秀」と「優」の合計が 31.6%であった。

2019 年度とは対象科目の選択方法が異なっているが、同じカテゴリーの合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

本学科では、対象とした主要科目の履修に大きな齟齬は認められず、学生は概ね順調に学んでいると認められる。ただ、履修放棄率の高い科目がいくつかあるので、原因の分析をおこなうとともに、講義内容や到達目標の見直しを検討したい。

○芸術学部

【芸術学科】

①評価の対象とする科目

評価の対象とする科目は、2019 年度の学生便覧に記載された教育課程表に基づいて選択した。一般教養科目から必修科目 7 科目（キャリア教育科目を除く）、キャリア教育 3 科目の計 10 科目、語学から英語（必修）2 科目、専門科目から 95 科目を対象とした。専門科目を、さらに専門共通必修 3 科目と専門共通選択 38 科目、専門選択 54 科目（5 分野）に分け、合格率と履修放棄率を算出した。

キャリア教育科目に含まれる「就職対策講座」は、選択科目であるが、芸術学科では必修科目として位置づけ、必ず履修するよう指導をおこなっている。

現在の芸術学科 1 学科への改組（2016 年度）以前の旧 2 学科のカリキュラムは、対象から除外した。

②合格率と履修放棄率

一般教養必修、キャリア教育、英語の12科目の合格率の平均は、いずれも95%を超えた。専門科目については、共通科目必修3科目（芸術表現基礎、卒業制作・研究Ⅰ・Ⅱ）の合格率の平均は、97.8%であった。専門共通の選択科目では、合格率の平均は94.9%で、38科目中16科目（42.1%）が合格率100%であった。専門選択科目では、合格率の平均は97.0%で、54科目中33科目（61.1%）が合格率100%であった。他学科に比べ、合格率が100%に達する科目がやや多い。

履修放棄率は、すべてのカテゴリーで、平均が5%未満（教養必修0.4%、キャリア教育1.4%、英語3.2%、専門共通必修0.0%、専門共通選択4.6%、専門選択1.8%）であった。専門共通の選択科目に、履修放棄率が15%を超える科目が6科目あった。これらの科目は、履修登録者20名未満の科目がほとんどであるが、1科目だけ履修登録者51名中、履修放棄が13名の科目が含まれる。専門選択科目にも2科目あるが、これらはいずれも履修登録者が20名未満である。

評価内訳については、いずれのカテゴリーにおいても受講生の過半数が「可」であったり、逆に高い評価ばかりであったりなどの成績評価の偏りは見られなかった。他学科と比べて、教養必修科目（初年次教育科目に相当）の評価がやや低めになっており、「秀」と「優」の合計が36.5%である。対象としたすべての科目では、「秀」と「優」の合計が44.3%であった。

2019年度とは対象科目の選択方法が異なっているが、同じカテゴリーの合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

芸術学科においては、対象とした科目の履修においてつまずきや著しい理解不足はなく、学生たちは堅調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の困難・不備はないと判断する。

○人間健康学部

【スポーツ健康学科】

①評価の対象とする科目

スポーツ健康学科では、2019年度にカリキュラム改訂を実施したため、対象科目を次のように決定した。まず、教育課程表を2018年度以前（便宜上旧課程表と表記）と2019年度以降（便宜上新課程表と表記）で照合し、対応する科目は同一科目として扱った。ただし、その中で必修／選択の区分が変わった科目については、対応する科目であっても別科目とした。その結果、教養科目から必修2科目、キャリア教育7科目、外国語科目から英語2科目、専門科目から必修13科目、選択48科目の合計72科目を対象とした。なお、新課程表においては2年次以降の科目は開講されていない。

②合格率と履修放棄率

合格率、履修放棄率、および評価割合の算出については、旧課程表の再履修者も新課程表の該当科目と合算して算出した。

教養必修科目と英語の計4科目の合格率の平均は、いずれも98%を超えた。キャリア教育科目の合格率の平均は84.0%であるが、これは受講生1名のみが1科目あり、その受講生が放棄したために、合格率が0.0%となっていることに起因する。この科目を除外して計算すると、キャリア教育科目の合格率は98.0%となる。専門必修科目の合格率の平均は95.1%で、13科目中3科目(23.1%)が合格率100%であった。専門選択科目の合格率の平均は94.4%で、48科目中12科目(25.0%)が合格率100%であった。

履修放棄率は、キャリア教育以外のすべてのカテゴリーで、平均が5%未満(教養必修0.3%、英語1.3%、専門必修3.3%、専門選択4.0%)であった。キャリア教育科目については、上記の理由で放棄率が100%になっているが、この科目を除外すると放棄率は0.0%である。履修放棄率が15%を超える科目は、専門必修に1科目、専門選択に5科目あった。このうち2科目は履修登録者が20名未満であるが、その他の3科目の履修登録者は、それぞれ68名、105名、109名であり、放棄した原因を確認する必要があるかもしれない。

評価内訳については、英語2科目の合計で「可」が55.3%となり、やや低い評価に集まっている。「良」または「可」を合計すると、76.5%に達している。この他のカテゴリーについては、受講生の過半数が「可」であったり、逆に高い評価ばかりであったりなどの成績評価の偏りは見られなかった。対象としたすべての科目では、「秀」と「優」の合計が50.4%であった。

評価

スポーツ健康学科では、成績評価を正規分布するよう心がけている。対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。

【健康栄養学科】

①評価の対象とする科目

評価の対象とする科目は、2019年度の学生便覧に記載された教育課程表に基づいて選択した。一般教養科目から学修基礎科目(必修)4科目、スポーツ科学(必修)1科目、キャリア教育4科目、外国語科目から英語2科目、専門基礎科目および専門科目61科目、関連科目14科目の計86科目を対象とした。

②合格率と履修放棄率

学修基礎科目、スポーツ科学、キャリア教育、英語の11科目の合格率の平均は、いずれも98%を超えた。特に学修基礎科目は99.2%に達している。専門基礎科目および専門科目については、合格率の

平均は97.4%であった。61科目中9科目(14.8%)が合格率100%であった。関連科目については、合格率の平均は92.4%で、14科目中4科目(28.6%)が合格率100%であった。

履修放棄率は、関連科目が7.5%であるほかは、すべてのカテゴリーで、平均が5%未満(学修基礎1.3%、スポーツ科学0.8%、キャリア教育1.5%、英語2.0%、専門基礎および専門2.6%)であった。関連科目で履修放棄率が高くなっているのは、このうちの1科目に50.0%という科目があるためだが、この科目は履修登録者が2名しかおらず、うち1名が放棄したために高い数値が出ている。

評価内訳については、いずれのカテゴリーにおいても受講生の過半数が「可」であったり、逆に高い評価ばかりであったりなどの成績評価の偏りは見られなかった。対象としたすべての科目では、「秀」と「優」の合計が47.3%であった。実験・実習科目の一部に、評価が「良」以下に偏る科目が複数みられる。

2019年度とは対象科目の選択方法が異なっているが、同じカテゴリーの合格率や評価割合に、著しい差異は見られなかった。

評価

対象とした主要科目の履修につまずきは見られず、学生は順調に学んでいると言える。したがって、評価対象としたカリキュラムに学修計画上の無理はないと判断する。しかしながら、実験・実習科目に低い評価が多数見られることについては、今後の精査が必要である。

カリキュラムポリシーに関する総合評価

大学においては、カリキュラム(教育課程)は、カリキュラムポリシーに沿って編成されている。このカリキュラム編成に何らかの不備や瑕疵があるならば、学生の学びは順調に進まないことが予測される。また特定の科目に低評価が集中する、あるいは履修放棄率が極端に高くなるなどの結果が見られた場合、段階を踏んで学ぶように設計されたカリキュラムの中に、つまずきを誘発する要素(その段階にそぐわない内容や難易度)があると考えられる。今回の各学科の教育成果の評価においては、このような問題点は見当たらなかった。

したがって、カリキュラムの改訂ならびにカリキュラムポリシーの見直しが必要になるような状況は存在せず、ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない教育課程にはなっていないと言える。ただし、一部の学科に見られた履修放棄率の高さ並びに低い評価への偏りについては、今後の詳細な分析を必要とする。

ディプロマポリシーの評価資料

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

各学科の科目から、必修の卒業研究、卒業制作を選び、その合格率、履修放棄率、各成績の内訳を算出した。()内の数字は、2019年度比の数値である。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2016年度に入学し、2019年度に4年間で教育課程を修了して卒業した学生の数を、その学年が入学した当初の入学者数に対する割合で示した。

③就職内定率

各学科の就職希望者に対する内定者数の割合で示した。健康栄養学科においては、「管理栄養士」国家試験の合格率も、合わせて示した。

○文学部

【文学科】

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

文学科全体で131名（旧学科生含む）が履修（2019年度は129名）し、合格率は96.2%（同99.2%）であった。放棄が5名（同1名）おり、履修放棄率は3.8%（同0.8%）であった。評価割合は、「秀」が12.2%（同12.4%）、「優」が31.3%（同35.7%）、「良」が32.1%（同33.3%）、「可」が20.6%（同17.8%）であった。2018年度比較して、評価割合に大きな差異は認められなかった。履修者全体の63.4%が「秀」または「優」であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2016年度4月に入学した学生は143名であった。このうち86.7%に相当する124名が、4年間で教育課程を修了し2019年度3月に卒業した。2018年度の卒業率は、87.0%であった。

③就職内定率

就職希望者に対して、内定率は100.0%であった。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2019年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

【教育学科】 完成年度を迎えていないため、2019年度の卒業生はいない。

○経営情報学部

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

経営情報学科では、1学科に改組後の最初の卒業生を輩出した。改組前のカリキュラムには卒業研究相当の科目は存在しないため、2018年度との比較はできない。

経営情報学科で卒業研究に相当する科目は、「演習Ⅰ」（前期）と「演習Ⅱ」（後期）の2科目である。「演習Ⅰ」の合格率は99.3%で、履修放棄した者はいなかった。評価割合は、「秀」が17.0%、「優」が34.0%、「良」が30.1%、「可」が18.3%であった。「演習Ⅱ」の合格率は99.3%で、履修放棄した者はいなかった。評価割合は、「秀」が22.3%、「優」が31.8%、「良」が25.0%、「可」が20.3%であった。履修者全体の54.1%が「秀」または「優」であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

【経営情報学科】

2016年度4月に入学した学生は175名であった。このうち83.4%に相当する146名が、4年間で教育課程を修了し2019年度3月に卒業した。2018年度の旧2学科の卒業率は、2学科平均で87.1%であった。

③就職内定率

【経営情報学科】

就職希望者に対して、内定率は99.3%であった。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2019年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

○芸術学部

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

【芸術学科】

芸術学科では、1学科に改組後の最初の卒業生を輩出した。2018年度卒業生は、2学科に分かれていたが、比較のためこの2学科をまとめて合格率や評価割合を算出した。

2019年度の「卒業制作・研究Ⅱ」は、芸術学科全体で53名が履修履修（2019年度は53名）し、合格率は98.1%（同100.0%）であった。履修放棄した者はいなかった。評価割合は、「秀」が12.5%（同20.8%）、「優」が44.6%（同26.4%）、「良」が32.1%（同33.3%）、「可」が20.6%（同17.8%）であった。2018年度比で「優」と「可」の比率が増加し、「秀」の比率が減少した。履修者全体の57.1%が「秀」または「優」であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

【芸術学科】

2016年度4月に入学した学生は55名であった。このうち92.7%に相当する51名が、4年間で教育課程を修了し2019年度3月に卒業した。2018年度の旧2学科の卒業率は、2学科平均で91.7%であった。

③就職内定率

【芸術学科】

就職希望者に対して、内定率は100.0%であった。

評価

以上①から③までの評価に基づき、2019年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

○人間健康学部

【スポーツ健康学科】

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

2019年度の「専門演習Ⅱ」は、スポーツ健康学科全体で111名が履修（2019年度は101名）し、合格率は100.0%（同100.0%）であった。履修放棄した者はいなかった。評価割合は、「秀」が44.1%（同40.6%）、「優」が34.2%（同29.7%）、「良」が12.6%（同22.8%）、「可」が9.0%（同6.9%）であった。2018年度比で「秀」と「優」の比率が増加し、「良」が減少した。履修者全体の78.3%が「秀」または「優」であった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2016年度4月に入学した学生は121名であった。このうち91.7%に相当する111名が、4年間で教育課程を修了し2019年度3月に卒業した。2018年度の卒業率は、91.6%であった。

③就職内定率

就職希望者に対して、内定率は100.0%であった。

評価

「専門演習Ⅱ」は、退学者以外に放棄した学生はおらず、「秀」が全体の40%を占めた。熱心に卒業研究へ取り組む優秀な学生が多く、順調な学修成果を上げたと判断する。

以上①から③までの評価に基づき、2018年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

【健康栄養学科】

①卒業研究／卒業論文／卒業制作の評価

健康栄養学科は、2019年度に設置後の最初の卒業生を輩出した。そのため、2018年度との比較はできない。

健康栄養学科の卒業研究相当科目は、「卒業研究Ⅰ」（前期）と「卒業研究Ⅱ」（後期）の2科目である。「卒業研究Ⅰ」の合格率は100.0%で、履修放棄した者はいなかった。「秀」が32.9%、「優」が40.8%、「良」が17.1%、「可」が9.2%であった。履修者全体の73.7%が「秀」または「優」であった。「卒業研究Ⅱ」の合格率は100.0%で、履修放棄した者はいなかった。「秀」が48.0%、「優」が37.3%、「良」が8.0%、「可」が6.7%であった。履修者全体の85.3%が「秀」または「優」で、全学科の卒業研究相当科目の中で最も高くなった。

②卒業率（4年間での学修達成率）

2016年度4月に入学した学生は76名であった。このうち98.7%に相当する75名が、4年間で教育課程を修了し2019年度3月に卒業した。

③就職内定率および「管理栄養士」国家試験合格率

就職希望者に対して、内定率は100.0%であった。「管理栄養士」国家試験の合格率は、88.0%であった。

評価

「卒業研究Ⅰ」および「卒業研究Ⅱ」は、全員が合格し、履修者全体の70%以上が「秀」または「優」となり、熱心に卒業研究へ取り組む優秀な学生が多かったことがうかがえ、順調な学修成果を上げたと判断する。以上①から③までの評価に基づき、2019年度卒業生は、ディプロマポリシーにかなう学生であったと判断する。

ディプロマポリシーに関する総合評価

以上の評価により、大学においては、現在のディプロマポリシーに実情に合わない不適切な点はないと判断される。ポリシー自体は適切に運用されており、現状ではポリシーに合わない学生には学位を授与していないといえる。